

吹 田 市

「江坂エスコタウン再生」社会実験
～国土交通省一般社会実験を利用した取組～

吹田市では、平成18年10月1日から1ヶ月間、地下鉄江坂駅西地区（「江坂エスコタウン」とその周辺）において、放置自転車対策とまちの再活性化策等を目的として、地元自治会、商店会、NPOなどとともに、「江坂エスコタウン再生」社会実験を実施しました。

社会実験に至る経過

「江坂エスコタウン」は、商業・業務施設やアミューズメント施設が集積する江坂駅の西側にある、延長約250m、幅員約16mのコミュニティ道路です。中心となる市道は、地元企業からなる「西南吹田企業協議会」（現「江坂企業協議会」）の提言により昭和59年に整備され、事業費の一部を同協議会も負担するなど、整備当初から地元団体が深く関わってきました。全国に先駆け、地元団体が中心となってつくりあげたコンセプト（「道路に広場公園的な機能を付加させることにより回遊性を高め、商業空間としても活性化を図る」）のもと、都会と緑が混ぜ合わさったまちとして賑わいを見せてきました。

しかし近年、駅

に近いことやエスコタウンに面する店舗等に専用駐輪場がほとんど確保されていないこと、道路の構造上自転車の駐輪が容易であることから、約1,000台の自転車が放置されるようになり、歩行者等の通行を阻害するだけでなく、まちの魅力低下と地盤沈下の要因にもなるなど深刻な問題を抱えています。

これに対し本市では、条例により放置自転車の撤去を行い、地元自治会・事業者等との協議を重ねてきましたが、有効な打開策は見出せない状況でした。

このような中、国土交通省一般社会実験の制度を活用し、エスコタウンの抱える放置自転車対策をはじめとした様々な課題を解決する手がかりを見出そうと、地元自治会や商店会、NPO、行政等で構成する「江坂駅西地区交通環境改善協議会」を発足させ、社会実験を行いました。

社会実験の概要

●実験の目的

エスコタウンについては、本市では平成20年度にバリアフリー化再整備を予定しており、現在新たなコミュニティ道路としてランドデザインの策定を進めています。

そこで、エスコタウン整備当初のコンセプトを最



実験周知のためのチラシ



江坂エスコタウン実験配置図

終目標としながらも、次の3つの目的で社会実験を実施しました。

- ① 放置自転車の削減
- ② エスコタウンの魅力度向上策の実施検証（「江坂ブランド」の再構築）
- ③ エスコタウンの再整備に向けたランドデザイン策定のための基礎資料の収集

● 実験内容

目的を達成するために、次のような実験を行いました。

- ① エスコタウン内に協議会が管理する約500台の買物客専用仮設駐輪場を設置し、買い物客への指導・啓発を行う。他方で、通勤・通学者を既存の市営自転車駐輪場へ誘導し、買い物客とのすみわけを行う。毎朝7時の時点でエスコタウンに残る放置自転車を近隣公園内にある市営駐輪場内指定場所へ移動する。
- ② メディアを活用した広報と現地での周知を徹底する。（市報、新聞、ケーブルテレビ、ホームページ、看板、チラシ等）
- ③ オープンカフェの設置と週末の地元主催イベント（空手演武・ペットしつけ教室等）の開催を行う。イベント開催のため車両進入を規制する。
- ④ グランドデザインの基礎資料収集のため、来街者、商店、周辺住民へのアンケート調査等を実施する。

● 実験の効果

1か月間の社会実験で、次のような効果がありました。

- ① 通勤・通学者のエスコタウン内に駐輪（放置）する自転車が実験中約75%減少した。従来から実

施している早朝の放置防止指導について、実験中指導員を約2倍に増やし、徹底した誘導・啓発を行った結果、実験後もその効果が持続した。

- ② オープンカフェは、来街者のコミュニティや憩いの場として多くの人が利用した。
- ③ アンケート結果では、実験に対する賛意が8割を超え、エスコタウンのイメージが、「憩いや歩きやすさ・落ち着き」等の項目でマイナスからプラスに移行した。

社会実験後の展開

アンケート結果では、まちの来訪者や地元住民等が最も望んでいる施設は買い物客用駐輪施設で、緑や休憩施設も比較的望まれていることがわかりました。道路管理者以外の主体が、道路上に自転車及び自動二輪等の駐車の用に供する施設を占用物件とすることができる、平成18年11月の道路法施行令の改正を受け、現在、地元協議会では、駐輪施設を地域で設置、管理・運営していくことを検討しています。

現時点では、エスコタウンは、当初の整備コンセプトからは少し遠いところを歩んでいますが、今回の社会実験を通じて、地域内協力や柔軟な行政施策の重要性を改めて認識しました。また、広場機能を付加させるための交通規制や商店搬入用の荷捌きスペース、駐輪場の設置やイベント開催に伴う占用等、今後に向けた課題が整理され、地域が主体となるまちづくりのきっかけにつながり、バリアフリー化整備のランドデザイン策定に向けた貴重なデータが得られたことは、「エスコタウン再生」に向けた大きな一歩と考えています。



実験前（自転車で道幅も狭くなり危険な状態）



実験中（自転車が整理され、オープンカフェでのんびり）